

ANJO GAKUEN COMMUNICATION MAGAZINE

# ゆめっとフサ

2016 年度版



## 特集

### 豊田市旭地区連携新カリキュラム 体験型ボランティア実習

自学・共学システムを開発するための  
安城学園高等学校の取組み

愛知学泉短期大学における「無限の可能性」開発講座

岡崎城西高等学校 夏山合宿／安城学園の幼稚園に入ってよかったこと



榊野町の能見地区で「みんなて菜  
しいことをやろう」という目的で  
集まり結成された『浅間の会』。平  
成17年から始まった豊田市の「わく  
わく事業」に申請し、花壇づくりや  
農園づくり（笑菜耕）しようがっ  
つう、じゃんだらりんロード（散策路）  
の整備等を中心に活動しています。  
今回学生たちは、こちらの会のお  
手伝いに参加させていただき、畑作  
菜のお手伝いや花壇の手入れ、じゃ  
んだらりんロードに生息する山野草  
の名札の設置を行いました。ボラン  
ティアと言っても教えていただくこ

とばかりで、「ボランティアをする」というより「ボランティアをさせていただく」と感じた学生も多いようです。

また、7月には「螢火の集い（能見螢火）」というお祭が開催され、こちらの準備にも参加しました。「螢火の集い」とは、能見の集落の方々が田んぼやあぜ道、能見神社周辺などにペットボトルを並べ、中に口ウソクの火を灯していくお祭です。イベント当日は、お昼から町中総出のバーベキューのお手伝い、五平餅作り、螢火の用意をしました。どこへ

行っても快く迎えられ地元の一人のように接していただき、能見地区の方々の温かさにたくさん触れました。そして、日が暮れる頃には蛍火の点火を始めます。学生たちが作業に夢中になっていると、一緒に点火をしていた地元の方に「周りを見て「ごらん」と声をかけられました。顔を上げて周りを見渡してみると、そこには「きれい」や「すごい」など多くの言葉はとても言い表せない幻想的な光景が広がっていたのです。口ウソクの灯が点々と遠くまで続き、写真で見ていたものとは全く違います。この景色を見て、「自分から動いて、実際に体験しないと分からない世界があるんだ」ということに気づかされた」と話す学生もいました。

この実習を通して、ボランティアには相手を気遣うこと、コミュニケーションを大切にすること、大勢の協力によって達成できることがあることを多くの学生が気づきました。実際に、地域のために奉仕活動を行っている『浅間の会』の方々やお祭りに協力してくださった地域の方々と交流することで、真心・努力・奉仕・感謝の心を、なげない場面から感じ取ったはずです。この授業で得た気づきや発見、そして出会いは学生たちにとって大きな財産になったことでしょう。



せんげ  
浅間の会

特色ある地域づくり  
能見の里の笑楽耕

◆◆◆ 蛍火の集い・散策路の整備・  
畑作業のお手伝い 等

『わくわく事業』

豊田市では、地域資源（人、歴史、文化など）を活用し、課題解決に取り組む団体に「補助金」として活動を助成する「わくわく事業」という仕組みを設けています。まちづくりの担い手を育み、地域の活性化を支援します。



1. 約 2,500 個のペットボトルに火が灯され、夏夜の暗闇に灯が浮かび上がります。



2. 蛍火用ペットボトルの加工もお手伝いしました。
3. 一つ一つ火をつけていきます。一度に各地で点火をするので人手が必要です。



4. ニンニク植え。ニンニクの表皮をはがし、種球を一片ずつにわけて植えていきます。
5. 一人ひとり花壇の配置を考えました。花を咲かすのが楽しみです。
6. じゃんだらりんロードに立てた草木の名札。地元の方に名前を教えていただき作りました。



### 担当教員からのコメント

高橋知子 教授、丹羽誠次郎 教授、  
森山三千江 教授

学生はこの活動全体を通して、人のために物事を成し遂げる難しさと達成感を経験し、自主的に行動することや相手の立場に立って考えることの難しさを知りました。それは、地域の方の温かさに触れ、助け合いの大切さ、自然のありがたみを実感したからでもあります。社会人基礎力はそれぞれの学生により認識は異なりますが、働きかけ力、実行力、課題発見力、状況把握力など多くの力を伸ばすことができました。特に、ボランティアにも必要な建学の精神に学生自らが気づけた点は大きく、この実習の有意義だったポイントの一つだと考えています。



豊田市旭地区連携  
新カリキュラム

# 体験型 ボランティア実習

## 愛知学泉大学 各学部長からのメッセージ



家政学部 学部長 安藤 明美 教授

旭地区での活動は、本学の目指す“地域の人材育成”や“まちづくりへの貢献”にまさに合致したカリキュラムです。教室で学んだ専門知識・技能と社会人基礎力を活用した pisa 型学力の向上にも大いに役立つものと期待しています。



現代マネジメント学部 学部長 飯田 博 教授

旭地区は現在、ほぼ限界集落状態となっております。このような過疎・高齢化問題は、現代の日本社会全体の問題と言えるでしょう。今回の実習を通じて、学生には「地域社会を視野に入れたライフスタイルをデザインする能力」を身につけてほしいと思っています。



今年度から始まった新カリキュラム、「体験型ボランティア実習」。豊田市の旭地区と連携し、ボランティアを通して社会人基礎力を育むとともに、旭地区の活性化にも貢献していく取組みです。家政学部１年生は必修授業となっており１０チームが、そして現代マネジメント学部３年生はこの実習を選択した２チームが各地域で活動を行いました。初年度の今回は試行錯誤の連続でしたが、学生たちの得ものは大きかったようです。その活動の様子をご紹介します。

### III 身につける力

|          |         |       |         |    |
|----------|---------|-------|---------|----|
| 建学の精神    | 真心      | 努力    | 奉仕      | 感謝 |
| 社会人基礎力   | 前に踏み出す力 | 考え抜く力 | チームで働く力 |    |
| pisa 型学力 | 獲得      | 活用    | 解決      |    |

※pisa 型学力…知識や技能を実生活のさまざまな場面で直面する課題に活用できる力

### リーダー養成プログラム

初年度での経験を活かし、次年度からはより主体的に活動し、後輩たちのサポートも行います。4年間のボランティア実習を通してリーダースキルを身につけます。

```

graph TD
    FM[Faculty of Management] --> SM[School of Management]
    FM --> SM2[School of Management]
    SM --> DM[Department of Management]
    SM --> DM2[Department of Management]
    DM --> JM[Majors of Management]
    DM --> JM2[Majors of Management]
    JM --> TM[Tracks of Management]
    JM --> TM2[Tracks of Management]
    
```

Faculty of Management

- School of Management
  - Department of Management
    - Majors of Management
      - Tracks of Management





有志の方々が作った復刻水車。より多くの人に安全に水車を見に来てもらうため、水車小屋へ行く橋の修理をしました。また、道具を修理して発展途上国に送る「道具の会」のお手伝いもさせていただき、本格的なボランティア活動に触れました。



夏祭りの会場設営、魚の串焼きの下準備や流しそうめんのお手伝いをしました。夜には盆踊りにも参加させていただき、「盆踊りを残していきたい」という地元の方の声を聞き、踊りを教わり輪に混じらせていただきました。



地元の女性たちが中心となって開いたお菓子工房。お店の商品作りのお手伝いをしたり、工房を華やかに装飾したりしました。また、新商品としてかぼちゃとさつまいもの2種類のマフィンを提案し、試食会では高評価をいただきました。

支所長のお話



豊田役所 旭支所  
支所長 早川正文さん

今回の活動は単位認定がされる授業の一環であり、単なるボランティアを超えた学びの機会を提供頂きたいという話に真剣さを感じ、学生の受け入れを決めました。はじめは専門外の活動に戸惑いを隠せず、活動の意義を理解できない学生さんも多いようですが、回数を重ねるうちにその思いは徐々に変化していったようです。

限られた条件の中で、いかに自分から行動を起こせるか。そこには今後どんな職業についても必要とされる人間力が求められるのだと思います。その意味で1年目の今回は、決して満足のいくものではなかったかも知れませんが、その反省を生かし、来年度からはより積極的に、より知恵を絞って活動を行って頂きたいと思います。今後の一層の努力に期待しています。



子どもたちを対象に、遊びを通じて危険に対応する力や生きる力を育んでいるこの活動。どうしたら子どもたちに楽しんでもらえるかを考え、流しそうめんを企画したり、安全に遊べる柵やウッドデッキ作りをしました。



旭地区の減災ボランティアに参加し、防災訓練や啓発活動のお手伝いをしました。東海豪雨の被害にあった小渡地区の映像を見せていただき、集会所の窓に「飛散防止フィルム」を貼り安全な避難先づくりもしました。



直売所のお手伝いや稲刈り、芋掘りや歩道の清掃を行いました。様々なことを教えてくれた地元の方に恩返しがしたいと考え、さつまいものお菓子を振舞いました。とても喜んでいただき、感謝と奉仕の精神を身を持って体験しました。



毎年夏に行われる「夢かけ風鈴まつり」。そのお手伝いとしてコケ玉や灯籠作り、盆踊りにも参加しました。また、夏祭りやお月見会等のイベントにも協力させていただき、学生たちのパワーで会場を盛り上げました。



普段あまり接することのない高齢者の方との交流で、学生たちは相手のことを思いやって行動する大切さを学びました。学生が企画した演奏会では利用者の方にも歌ってもらい、多くの笑顔を見ることができました。



しだれ桃の育成、鯉のぼりの設置、草刈り等を行いました。秋祭りにも参加させていただき、お神輿と一緒に町内を練り歩き、神社ではダンスを踊り、普段の授業では学べないことをたくさん経験しました。

## 矢作川河畔林・有間竹林愛護会

竹林の環境整備事業

### ▶▶▶ 竹林整備のお手伝い・地元の方との交流会

矢作川河畔林・有間竹林愛護会は、竹林の環境整備事業を行っています。現代マネジメント学部の学生も、伐採した竹を運ぶお手伝いや、竹の切り株をノコギリで切り取る作業を行いました。夏の作業は暑く、蚊やマムシに遭遇して戸惑うこともありましたが、自然に触れ合う機会の少ない学生たちにとって、この実習は

放置竹林は他の植物を枯らし、生物の多様性や景観に悪影響を及ぼすなど、日本各地で問題となっています。旭地区の有間町でも地元の方々が集まり、望ましい河畔林のあり方を目指して竹林の整備を行っています。現代マネジメント学部の学生も、伐採した竹を運ぶお手伝いや、竹の切り株をノコギリで切り取る作業を行いました。夏の作業は暑く、蚊やマムシに遭遇して戸惑うこともありましたが、自然に触れ合う機会の少ない学生たちにとって、この実習は

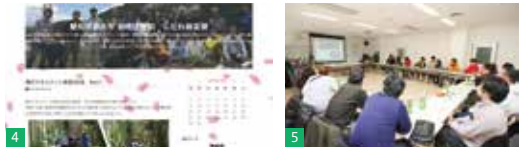
## 竹でつながる人の輪



1. 竹林愛護会の方々が切った竹を選び集め、まとめて燃やしました。竹は成長が早いのでこまめな手入れが必要です。



2. 実習前には毎回代表の方から注意点を聞きます。  
3. 整備した竹林には陽がさし、風が通るようになりました。



4. 学生が書いてある実習のブログ。http://souda-momo.seesaa.net/  
5. 全ての実習が終わってから意見交換会を行いました。

## 敷島自治区

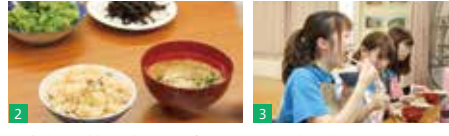
郷土料理の伝承

### 未来へ残す郷土料理レシピ

敷島自治区の活動では、地元の方に郷土料理の作り方を教えていただきました。今まで旭地区の郷土料理といえば、各家庭で受け継がれてきたものでした。しかし、少子化や過疎化が進むにつれて伝承する人々が減り、実際に調理できる人の数も少なくなってきました。そこで、家政学部の学生たちが旭地区の郷土料理の作り方を教わり、レシピにまとめて後世に残していく取り組みを行うことになりました。



1. 「鮎めし」づくり。丁寧に箸で身をほぐしました。鮎は「香魚」と呼ばれ、とても良い香りがします。



2. 完成した料理。鮎は夏の魚ということで付け合せはそうめん。  
3. 食事会の様子。学生たちは目を輝かせて食事をしていました。



4. 食事会のあとはレシピの確認と、交流会を行いました。  
5. 学生たちが制作したレシピの一例。

今回レシピを作成したのは、手作りこんにゃく、鮎めし、からすみ、とうろこ飯、自然薯の磯辺揚げの5つ。地元の特産を使ったものが多く、旭地区の方には馴染みの料理ばかりですが、学生たちは初めて食べるものも多かったようです。食事会では、講師を務めていただいた伊藤さんに旭地区で収穫される野菜や家庭料理などもお聞きし、交流を深めました。伊藤さんは「旭の郷土料理をレシピにまとめてもらえて嬉しい」と語り、「旭の味」が守られ、未来にも続いていくことに笑顔を見せていました。

この実習で、学生たちは旭地区に携わり、過疎化の進む地域で起こる問題や、そこに対して自分たちができることは何かを考えました。『郷土料理のレシピ』という形で、学生たちの活動を旭地区に残せたことは大きな成果です。この取り組みで地域社会との関わりを学べたことが、学生たちにとって一番の収穫でした。

### 参加した学生のコメント

「水車の里 つくば」の活動に参加して（家政学部 管理栄養士専攻1年）

このボランティア活動の内容を聞いた時、私は否定的でした。なぜなら、私は管理栄養士になるためにこの大学に来たのに、この活動がどう関係してくるのだと疑問ばかり先立っていたからです。活動の中で、「水車の里 つくば」の方々はそれぞれの知識と技術を最大限に活用して協力し合い、目標に向かって活動を進めておられました。そこでは資金や情報不足などの困難にも、今自分たちが持っている中でいかにして目的を達成するかに全力で対応されていました。このような旭地区の方々の姿を見て、今あるこの場所、この時間で、何を考え、どう判断し、行動に移すのが大切なのだということを教えていただきました。これは自分が将来、管理栄養士になる上でなくてはならない姿勢だと感じました。多くのことを学ばせていただきありがとうございました。





卒業後に必要となる行動特性とは何か。問題や課題が発生した時に、どのような姿勢でどう取り組んでいくか。そうした社会人として必要とされる基本的な力を身につけていくために導入を図る目的で本講座が置かれています。もちろんそれぞれの学科ごとに専門性を踏まえた授業展開を行っていますが、基本は同じ柱であると思っています。全ての授業の基礎となる考え方とし



愛知学泉短期大学 学長  
安藤 正人 教授

## 愛知学泉短期大学における 「無限の可能性」開発講座

本学園は「誰でも無限の可能性を持っている。一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで開発するのが教育である」という創立者の教育信条に基づいた教育を展開し、短期大学では「無限の可能性」開発講座をカリキュラムに設けています。今回、改めて短期大学の学長及び各学科長に、本講座の意味や具体的内容をお聞きしました。

振り返りに重点を置き、学生自らの『気づき』を大切に

食物栄養学科の「無限の可能性」開発講座では、「社会人基礎力とは何か」を理解してもらうため、気づかせることを重視した授業から展開していきます。学生たちには授業後の振り返りシートはもちろん、1週間（授業外）の振り返りシートも記入してもらいます。自ら『気づき』を得ることが最も学生たちの成長につながると思われ、普段の生活の中でも意識するよう促し、社会人としての基盤を形成していきます。

授業で基礎を築き、専門科目で発展させる

専門科目としても社会人基礎力の各能力を向上させるプログラムを組み込んでおりますが、学生たちに分かりやすく伝えるためにもこの「無限の可能性」開発講座は意義深いと考えております。後期の授業では栄養士の仕事を意識した題材を取り入れ、産学連携事業では実践に近い状況で学びを活かせる取組みを行っております。他の授業と相乗的に力を身につけさせるカリキュラムが本科の強みの一つと言えるでしょう。

栄養士学外実習は社会人としての自分を試すチャンス

栄養士学外実習は学生たちが自らの社会人基礎力を試す良い機会でもあります。実習に当たっては、コミュニケーション力をはじめ主体性や傾聴力など様々な能力が必要とされます。実際に働いてみてから気づくことも多く、学生たちは皆一回り成長して帰ってきます。学んだことを意識して実習に臨むことで、より有意義な経験になり、「無限の可能性」開発講座の重要性を改めて実感しています。

食物栄養学科 学科長  
横田 正 准教授



- ① 普段学んでいる食物栄養に関する事例で、川柳を考え発表しました。
- ② グループごとに食育の紙芝居を作りました。規定のイラストを用いて各グループでアレンジを加え、ストーリーを考えてもらいます。実際に実習で食育を行う機会もあるので、良い経験になっています。



多種多様な職に通用する社会人の基礎を育む

生活デザイン総合学科は多彩で豊富なカリキュラムが魅力ということもあり、学生たちは日々の学びの中で将来の展望を考え、様々な進路へと羽ばたいていきます。そのため本学科の「無限の可能性」開発講座では、どの業界でも通用する社会人としての基本を身につけることを目的としています。本年度から学科内で社会人基礎力育成グランプリの予選が行われ、本大会では見られない学生たちの成長も実感いたしました。

教員も全力で学生一人ひとりをサポート

160名以上の学生が在籍する本学科です。授業は3クラスに分け、クラス内でも小グループをつくり専任の教員を置くことで、一人ひとりに手厚い教育ができるよう心がけています。教員の我々もこの授業に臨むにあたり予習や復習をし、毎週金曜日には打ち合わせを行い、学生たちが卒業後に社会人として輝かしいスタートが切れるよう、より良い授業作りに日々努めております。



個々の成長が学科全体を成長させる

授業では自分たちでオリジナルゲームを考案するグループワークや災害時に避難所をどのように運営するかを考えるゲームなど、チームで協力してアイデアを出し合う課題を与えています。そこで培った能力は2年次の総合ゼミナールの授業や就職活動でも活かされ、学生たちの自信につながっているようです。その成果が各種コンテストの入賞や就職率としても現れ、本学科全体の成長につながっています。



- ①② 「無限の可能性」開発講座の様子。
- ③ ゼミではブランド「ERIMBOISE」を立ち上げ、おかざきカントリーフェスタ2016にて自作アクセサリーを販売。
- ④ 第73回 NDK ファッションデザインコンテストで加藤由莉香さんが準グランプリ 大阪市長賞を受賞（モデルは別人です）。

生活デザイン総合学科 学科長  
小山田 尚弘 教授



「人」を相手にする仕事だけに基本教育は重要

幼児教育学科は「保育士」「幼稚園教諭」という、直接的に「人」と向き合う職業を目指す学びの場ですから、主体性や課題発見力、計画力や発信力を育てる「無限の可能性」開発講座は非常に重要だと考えています。特に短大は2年間という短い期間に各種実習や資格試験対策のスケジュールがしっかりと詰まっていますので、限られた時間を最大限に活用し、効率的に学習できるようなカリキュラムを考えています。

学生の個性を大切にしたい、気配りのある指導

具体的には全学生を10名程度の小グループに分け、各教員がゼミ形式で授業を進めていきます。またここでは授業だけでなく、入学後の学生生活や人間関係の悩み、将来の職業選択など、対話を重視したきめ細かな支援も同時に行います。自立した社会人を育成していく上で、まずは自立した人間形成を目指し、生活態度・責任感等の大切さなど、一人の大人としての常識を身につけていきます。



- ① 幼稚園児と一緒に芋掘りを行いました。「無限の可能性」開発講座でも、実践に向けた取り組みを取り入れています。
- ② 実際に幼児と交流を図る「こどものかかわり実践」の様子。子どもと触れ合う機会をたくさん設けています。

視野を広げ、プロとしての心構えも同時に習得

本学園の附属幼稚園の協力で、一番さながらの体験学習を1年次から行っています。卒業生からアドバイスをもらう機会も多く、自然とプロ意識が身についてきます。昨年は某有名テーマパークの元人事担当者に、ホスピタリティの大切さを教授してもらう特別授業も開催しました。私たち教員も知恵を絞りながら、教育学科としての基本教育に加え、幅広い視野を持った豊かな心の教育者を育てていければと思っています。



幼児教育学科 学科長  
伊藤 智式 准教授



iPadを使った反転授業を行う国分 涉悟先生（中央）と  
生徒の中川 侑河君（左）と畔柳 優葉さん（右）。



安城学園高等学校では「考えること」「表現すること」を大切にしており、『反転授業※』を取り入れ生徒たちの学びの意欲を向上させる取り組みを行ってきました。また、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）が進展した昨今、教育にICTを取り入れるべく全教員にiPad（タブレット端末）を貸与しています。そして現在、iPadを有効に活用した学習（Learning）を「iPAL（アイバル）」と称して推進しております。今回は、iPadを使い反転授業を行う国分涉悟先生（英語科）の取り組みとiPAL委員会の先生方のお話を紹介します。

国分先生の考える「iPAL」とは？

時代が急速にICT化する中で、教育の現場にもICTを取り入れていく動きが大きくなっています。また、これからの学力は「知識＋表現・活用」となり、自分の得た知識を「何に、どのように使い、人と関わっていくか」が重視されていくと考えています。社会で必要とされる能力を育むことが教育に求められる以上、学校や教員もそれらに対応していかなければなりません。

以前から校内でも反転授業の構想はありましたが、iPadが貸与され、外部の研修会でICTを使った反転授業を学ぶなどして、徐々に具体的な取り組みが行われるようになってきました。最初は教員用のみに配備されたiPadですが、生徒用にも増備され、授業に導入する先生も増えていきます。しかし、iPadは所詮ツールの一つで、必ずしもこれを使う必要はありません。iPadを使わなくても生徒主体の授業は行えます。いくら授業にICT活用が普及したとしても、iPadだけでも限界がありますし、紙だけでも限界があります。これからの時代は両方を使いこなし、どのツールをどこ

※反転授業：授業と宿題の役割を「反転」させて行う授業形態。知識の習得はデジタル教材等により授業外の時間に各自で済ませ、授業中はクラスの生徒と共に習得した知識の確認や問題解決学習などを行う。



国分先生が作った予習用動画。「Explain Everything」というiPadのアプリケーションを使い、教科書の内容に解説を加えていく。  
また、iPadを持っていない他のクラスの生徒向けにYouTubeでも動画も公開している。



構文の解説や文章を読み解くポイントを書き込むことで、生徒の予習をサポート。重要な部分がまとめてあるので授業の復習や試験対策にも活用できる。

で使うかの判断もしなければいけません。新しいものに慣れるためには勉強が必要であり、取り入れるには時間がかかります。しかし、教育にICTが入ることで活動は広がり、生徒たちの意欲をさらに引き出せると考えています。

どのようにiPALを授業に取り入れていますか？

私が担任を務める2年6組（文理コース）では、クラス全員にiPadを貸し出し、反転授業に挑戦しています。事前に授業の要点をまとめた予習用の動画を作り、インターネット上のファイル共有サービスで公開し、生徒たちには自宅で視聴してきてもらいます。

動画では主に教科書の解説を行っています。1動画は5〜10分、1レッスン（4パート）の要点をまとめており、一般的な授業では2週間かけて行う範囲です。休日の間に動画を観ておくことで、一部の文章をノートに書き写しておく課題を出し、週の初めに予習の補足として解説やポイントを説明することで、生徒の理解度を深めます。そして、その週の残りの授業では音読や発音の練習、グループで課題の答え合わせをすることで、一方的な講義スタイルだけではなく、生徒を中心とした授業作りを心がけています。

iPad学習では場所や時間を問わず何度でも動画を観ることができ、要点を理解してから授業に臨

むことができるので、授業進度も格段に速くなりました。そのおかげで、普段の授業ではなかなか時間の取れないセンター試験対策やリスニングに時間を充てることができ、生徒たちにたくさん英語に触れる機会を設けることができました。

何故、反転授業なのですか？

以前から、従来の授業の仕方には疑問を感じていました。人によって得意・不得意があり、学力差があるにも関わらず、同じペースで同じ授業を行うのは非効率的です。また、生徒が授業に積極的に参加できる方法を取り入れたいと考えていました。「英文法を説明して、英文を訳して：」という授業スタイルであれば、生徒に答えを渡せば生徒たちだけでできることです。私は、みんながいる授業でしかできないことをやりたいし、もっと深い学びをさせたいという思いが強くなりました。「解説する」ことを授業の時間外にできたら、もつと授業は活動的にできるのに：というモヤモヤがあったのです。

どうしようかと考えていた時に、ある研修会でアクティブラーニングの第一人者である産業能率大学経営学部的小林昭文教授の講演を聞き、「分かりやすい授業とできるようになる授業は違う」と気づいたのです。分かっているけど、定着しなければ意味がない。小林先生の実践されているアクティブラーニングを自分の授業にも取り入れた

## 国分先生の反転授業

1



### 予習用の動画の作成

国分先生がiPadのアプリケーションを使い、教科書の要点をまとめた予習動画を作成し、データを共有する。

2



### 各家庭で動画の視聴

生徒たちは各自のiPadから動画を視聴。自分のペースに合わせて解説を観ることができ、何度でも再生ができる。

3



### 授業に向け予習

特に重要なところや、授業でも解説があるところはノートに書き写す指示が出る。予習をしないと授業で苦勞することに…。

4



### 授業スタート

予習を前提に授業が始まるので、大事なポイントにしばって解説。授業で予習の補完をし、内容の理解を深める。



いと思い、反転授業を始めました。結果、予習に重点を置くこのやり方がうちのクラスには合っていたようです。初めは戸惑う生徒もいましたが、みんな頑張って追い付いて来てくれました。以前に比べ自主学習の量が増えたので、部活動に入っている子や、遠くから通学している子には特に大変だと思えます。生徒に負荷をかけすぎないように調整し、なんとか形になってきました。

中には、反転授業というと「家でやってこない子は授業に付いていけないのでは？」と思う人もいますが、課題をやらない生徒は反転授業に関わらずやってこないでしょう。また、授業を聞くだけで内容を身に付けることも難しいでしょう。生徒たちの学習時間は明らかに増えています。しかし、努力せずに学力は身に付きません。生徒からも、授業の質が上がり授業内容も分かりやすくなったという意見をもらい、手ごたえを感じています。実際に反転授業を行ってクラスの偏差値は上がり、10以上も成績が伸びた子もいます。成績の良い子は私の高校時代よりも良いくらいです(笑)。

### これからの課題は何ですか？

アクティブラーニングを行う上で、教師は極力口を出さずに見守らなければいけないという意見もあります。私としても、「自発的に学習に取り組んでほしい」「生徒たち

で課題を解決してほしい」という気持ちはありませんが、自分が受け持っているのはあくまで進学クラスの生徒たちです。彼らを希望の進路に導くには、偏差値を上げることが求められるため、生徒たちだけに授業を任せることはできないと思っています。しかし、アクティブラーニングを取り入れた授業で生き生きと話し合う生徒たちの姿を見ると、授業スタイルを変えてよかったと心から思います。一方的に教えていた時とは顔が全く違うのです。生徒たちが自ら疑問に思い、調べ、話し合うことで、教えられるのではなく主体的に学べる状況が自然とでき上がってくるのが大きいですね。私の行う反転授業もまだまだ試行錯誤の途中です。学校では人と触れ合ったりぶつかり合ったりして、話し合うことや集団ならではの取組みを中心に行っていくことを理想としています。本学園の目指す自学・共学システムの開発を基本に置き、単に英語を覚えさせるだけではなく、自ら学ぶ力・共に学ぶ力を養う授業をしていきたいですね。

### ● 国分 涉悟 (こくぶん しょうご)

愛知教育大学教育学部卒業。言語学、言語習得論を研究。大学在学中、オーストラリア・カナダへ留学。TESOL Master 取得。  
中国人、韓国人などアジア人に英語を教える中で、独自の英語教育法を探究。現在、安城学園高等学校英語科教諭。

## 談 鼎

# iPAL 委員座談会

英語科教諭 (iPAL委員会 主任)

金本 勢一郎 先生

理科科教諭

宮田 淳 先生

英語科教諭

国分 涉悟 先生

iPAL委員会の主任を務める金本先生(写真中央)。iPadを使い生徒の意欲を引き出す授業を行う宮田先生(写真左)。進学クラスで反転授業に挑戦する国分先生(写真右)。安城学園高等学校のiPAL委員会を牽引する3人の先生にそれぞれのiPALの取組みやこれからの課題などについて語っていただきました。

金本…iPadを使った授業は試行錯誤の段階ですが、はっきり言えるのは生徒の反応が異常に高いことです(笑)。一度iPadでグループワークをしたのですが、新鮮さもあり生徒は生き生きと取り組んでいました。普段より圧倒的に質問が多く、生徒同士で教え合った方が自発的に授業に取り組め、理解も深まっていたように感じます。  
宮田…私は反転授業を授業中に行う『クラス内反転』を行っていています。授業中に調べ、考える時間を設け、最後に皆で答え合わせをしますが、教材の配布、調べ物、課題の提出、グループ発表が全てiPadを使ってできるので重宝しています。iPadで時間短縮やペーパーレスになり、授業方法が広がりました。そして何より生徒のテンションが違いますね。  
国分…そうですね。情報通信技術は進化するわけですし、便利な道具は積極的に導入するべきだと思います。iPALの導入で、問題に対する解答をクラス全員で共有でき、他の生徒の色々な考え方や導き方を学べる点も大きいですね。  
金本…今はiPadの数に制限があるのでグループワークが中心で



です。個人の学習は家庭でしてきた上で、授業では全員で映画の吹き替えを行う等、集団で英語を理解し、習得する取組みを行っています。せっかく大勢が集まるわけですから、そこでできない授業をやるべきですね。  
宮田…理科はビジュアルが有効なので、生徒に実験の様子を動画で発表させています。実験内容も生徒が決め、動画を撮影し、原理も説明する。単純な実験でも原理が意外と難しかったり、動画がドラマ仕立てで凝っていたりして、個性が出て面白いですね。自分から学ぶ姿勢が発揮できていると思います。  
金本…確かにYouTubeなどでは面白そうな実験動画がたくさん見られますからね。ところで国分先生はiPALを上手に用いて生徒の成績を伸ばすことに成功されていますが、事前の準備は大変じゃないですか？  
国分…今は便利なアプリもありま

す。また、慣れればそれほどありません。それより何を重点的に学ばせるかですね。カリキュラムの進捗状況や生徒の理解度に合わせ、その時その時でベストな内容を考え、掲載しています。今までの授業準備と何も変わっていませんよ。  
金本…確かに、ツールが変わっても学ぶべき内容が変わるわけでは無いので、これから変わっていくと思います。  
国分…今は教育制度改革が行われ、中学・高校の教育現場でも、思考力や判断力、表現力などを習得させる授業が必要になってきます。従来からの知識のインプットに加え、物事を多面的に理解してアウトプットを上手に行う学習にもiPALは力を発揮できると思いますよ。  
宮田…反転授業の実践に、iPALは有効な武器です。それと、これからは教える側のアイデアも問われる時代です。生徒に面白そうなネタや見せ方を考えさせるのはいとして、教員側も適切なコンテンツ・教材をどう準備するかという課題もあるかと思っています。  
金本…今後は情報リテラシーや運用上のルールづくり、データ管理やセキュリティ、容量の確保や通信設備の整備等、学校が考える問題も沢山あります。iPALを用いた教育は始まったばかりですが、これからは時代の変化に柔軟に対応してい

## STUDENT'S VOICE



なかがわ ゆうが  
中川 侑河 君 (2年6組)

蒲郡市立蒲郡中学校出身。  
平成28年度後期級長。  
人に教えることが好きで、人と関わり自分の思いを伝えていける職業ということで教師を目指す。2年生の秋まで野球部に所属。

### 授業は予習の復習。効率よく内容を吸収。

初めは経験のないことへの期待と不安の両方がありましたが、実際に行ってみると不安の部分は消え、期待よりもはるかに効率よく分かりやすい授業でした。自分も含めて周りの皆も、普段からSNSや動画投稿サイトを観ているので、反転授業の予習動画に慣れるのに時間はかかりませんでした。動画を観て、ノートに写す時間は15～20分。そこまで多くて辛いと感じたことはありませんが、部活動をやっていた当時は家に帰宅する時間が遅くなることもあり、多少負担に感じることはありました。しかし、自主学習で事前に内容を頭に入れてから受けられるので以前より先生の解説を集中して聞くことができ、授業の吸収も早く内容の理解も深まりました。



くろやなぎ りょうは  
畔柳 優菜 さん (2年6組)

岡崎市立城北中学校出身。  
平成28年度前期級長。  
中学時代に職場体験で障がい者施設を訪問し、自分も障がい者の人たちの支えになりたいと感じ福祉の道を志す。好きな教科は数学。

### 受験に向けた授業内容に感謝しています。

反転授業を始める前は授業のスピードについていけないこともありましたが、予習に重点を置くスタイルになってからは授業の内容がスムーズに分かるようになりました。また、反転授業で予習の大切さを実感し、他の教科でも少しずつ取り組んでいこうと思っています。  
大学受験が近づいてきていることもあり、以前の何倍も積極的に勉強に取り組むようになりました。反転授業のおかげで受験に向けた勉強を行う時間ができたので、センター対策や発展問題など教科書以外の内容を扱ってもらえてとてもありがたいと感じています。自主学習用の教材もiPadで共有しているので自分のペースでさらに学ぶこともでき、家庭での学習にも役立っています。





「夏山合宿」は、岡崎城西高等学校で昭和45年から続く歴史の深い行事です。平成11年からの男女共学になる以前は3年生全員が参加し、キャンプ場に1000張を超えるテントを張って宿泊していました。共学以降は希望制となり、参加者数も30人前後ですが、「夏山合



菅沼 早織 さん(3年7組) 加藤 菜々穂 さん(3年7組)

宿」の精神は変わらずに受け継がれています。

初めてこの夏山合宿に参加した3年生の加藤さんと菅沼さんは、山の麓に着いた時、あまりの大きさに登頂できるか不安になったと言います。槍ヶ岳は3180m、日本で5番目の高さを誇ります。登山初心者にはなかなか厳しい道中だったようで、「途中で何度も心が折れそうでした。高校時代で一番辛かった(笑)。」と話してくれました。クラスの友人6人で臨んだ高校最後の挑戦。気持ちが負けてしまいそうになっても、乗り越えられたのは仲間がいたからでしょう。登りきつ



辻村 元佳 君(1年6組) 古庄 陽登 君(1年12組)

た達成感や、6人全員で眺めた景色は、そこに行かなければ得られなかった大切な思い出です。

また、今年度は1年生の参加者も多くみられました。入学する前からこの行事に興味を抱いていた辻村君は、山頂で見た天の川の美しさに感動したと言います。ワンダーフォーゲル部に所属する古庄君は、楽しんで登山ができたと振り返り、2人とも来年への意欲をみせていました。

一人ひとりが様々な思いで登った「夏山合宿」。道のりは決してやさしいものではありませんでしたが、登りきった先には新しい自分が待っていました。この合宿を「目



田山 幸生 先生

分の可能性を感じられる行事」と話すのは、引率を主導する田山先生です。登山は自分自身と向き合うチャンスであり、岡崎城西高等学校の建学の精神の一つである『己に克つ』を実現する貴重な経験でもあります。また、「全員で登る」ことで仲間への気遣いやコミュニケーションを自然に身につけ、今まで交流のなかった生徒同士にも絆が生まれるそうです。この様子を見て、田山先生は「この行事で得られたものが、合宿後にも日常で感じられることが嬉しい」と顔をほころばせます。また、岡崎城西高等学校の卒業

登山は自分自身と  
向き合うチャンスであり、  
城西の建学の精神である  
「己に克つ」を実現する貴重な経験



伊藤 広剛 先生

生である伊藤先生は、教員になってからこの「夏山合宿」に初めて参加し、「高校時代に登ることに意義がある」と改めて実感したそうです。それと同時に、引率の責任と緊張を経験し、「教員として、無事に行うことの重みを感じる」と話します。47年間の伝統の影には教員たちの

並々ならぬ努力があり、これまで続けてこられたことは誇りでもあります。

「夏山合宿」はまさに『楽ではないが楽しい学校』をモットーに掲げる岡崎城西高等学校の本質が光る行事。人生はよく山登りに例えられます。この合宿で得た経験や自信は、将来必ず試練や困難を乗り越える力になるでしょう。これからもこの伝統を引き継ぎ、生徒たちの逞しい心身の成長と可能性への挑戦を応援していきます。

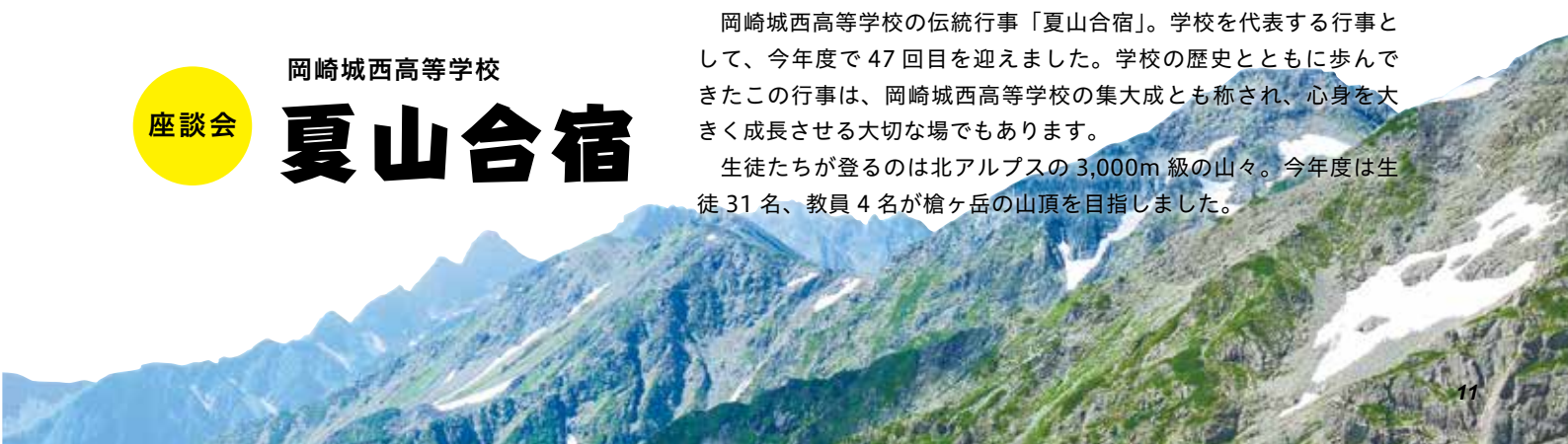
座談会

岡崎城西高等学校

夏山合宿

岡崎城西高等学校の伝統行事「夏山合宿」。学校を代表する行事として、今年度で47回目を迎えました。学校の歴史とともに歩んできたこの行事は、岡崎城西高等学校の集大成とも称され、心身を大きく成長させる大切な場でもあります。

生徒たちが登るのは北アルプスの3,000m級の山々。今年度は生徒31名、教員4名が槍ヶ岳の山頂を目指しました。



穂高岳から槍ヶ岳に続く縦走路(右)  
待ちに待った山小屋の夕食!(中央)  
槍ヶ岳山荘から見た槍ヶ岳夕景(左)







# PROFILE

市川家

母：彩さん

子：赤穂くん（銀河組）



1. サマーキャンプでは、カレーを作りました。自分たちで作ったカレーは美味しい！  
2. 安城七夕まつりにて。色とりどりのおみこしを担いでお祭を盛り上げました。



2

## 愛知学泉大学附属幼稚園

### 子どもたちの可能性を引き出す環境とプログラムで心身ともに成長しました

大学幼稚園は行事が多く、そのたびに成長が実感できます。生活発表会では自分の役割に使命感を持って取り組み、運動会では勝つ喜びと負ける悔しさを経験しました。中でもクラス対抗リレーは、みんなのために頑張ることやバトンをつなぐ責任を持つことで、今まで以上に子どもの伸びを感じましたね。我が子は園長先生とのサッカーが大好きで、朝から晩まで走り回っています。家に帰ってもまだまだ元気があり、年少の時と比べてかなり体力がつきました。子どもたちの成長には日々驚かされます。最近では、将来は人を助けることのできる仕事につきたいと言っていたと知り、驚きました（笑）。親が知らないうちに子どもはたくさんのことを考え、吸収しているのです。これも子どもたちの頑張りを全力で応援してくれる先生方や、のびのびと遊び、学べる環境のおかげです。子どもの可能性をどんどん広げてくれるこの園を選んで本当によかったと思っています。

### だらかな先生たちに囲まれて毎日キラキラした顔で通っています

瑠花の兄姉もこの桜井幼稚園でお世話になり、お姉ちゃんが年長の時に瑠花も入園しました。瑠花は末っ子ですがしっかり者で、幼稚園に入れることに何も不安はありませんでした。しかしいざ入園してみるとお姉ちゃんと離れられず、別々の教室に連れて行かれて大泣き。次の日もお姉ちゃんと同じ教室に行くと言ってきかず、入園してからしばらくは年長の教室で過ごしていたようです。そんな時でも先生方は温かい目で見守ってくださり、瑠花のペースに合わせて、給食や運動会の練習の時間だけは戻って来ようように声をかけてくれました。それから少しずつ自分の教室に行けるようになり、運動会が終わる頃には同じクラスのお友達もできて、今では幼稚園が大好き。積極的に先生のお手伝いをしたり、クラスをまとめたりすることもあるそうです。子どもたちの自主性を尊重し、優しく見守ってくれる先生方にはいつも感謝しています。

1. お泊り会では一日中お友達と一緒に。普段とは違う特別な一日でした。  
2. 運動会の組体操にて。練習した成果を多くの人に見てもらいました。

## 愛知学泉大学附属桜井幼稚園



1



2



# PROFILE

角谷家

母：千春さん

子：瑠花ちゃん（ほしぞら組）

## MOTHER'S INTERVIEW

# 安城学園の幼稚園に入ってよかったこと

### お母さんたちの“こえ”をお聞きました

安城学園の三幼稚園の建学の精神は『真心・努力・奉仕・感謝』。子どもたちのやさしい気持ち、素直な心を伸ばすことを大切にしています。また、教職員一人ひとりが子どもたちそれぞれの個性や成長の度合いを見極め、きめ細やかな保育ができるように努めています。



# PROFILE

岩崎家

母：智美さん

子：隆斗くん（太陽組）



1



2

1. 生活発表会、劇“不思議の国のアリス”にて。トランプ兵が様になっています。  
2. 安城七夕まつりの鼓笛パレードでは、堂々とした演奏を披露しました。

## 愛知学泉短期大学附属幼稚園

### 幼稚園の温かい雰囲気が子どもたちの「心」を育んでくれます

教育理念がしっかりしていて、子どもたちの年齢や教育の分野に合わせて教育目標が細かく設定されているところに惹かれて入園を決めました。子どもにはコミュニケーション力を育んでほしいと考えていたので、先生と子どもたちの距離が近いこの園がぴったりだと思いました。実際に入園してみると、先生全員が全園児を把握していて驚きました。子どもに対する声かけや促しも上手で、初めての生活発表会で恥ずかしがっていた隆斗も年長になると堂々と舞台上に立っていました。また、先生方は子どもたちをとて褒めてくださいますが、いけないことをした時はきちんと言い聞かせてくれ、その姿に母親の私も学ばせてもらっています。年少の頃は少し奥手だった隆斗ですが、今では自ら積極的に友達に声をかけにいくようになり、年下の子には優しく接しているようです。アットホームなこの園だから、子どもたちも安心して育っていけるのだと感じました。



# 学校法人安城学園 創立 105 周年事業

明治 45 年 4 月に安城裁縫女学校を開設した学校法人安城学園は、平成 29 年 4 月で創立 105 周年を迎えます。この記念する節目に「教育で勝負できる学校ー3つの挑戦ー」をテーマとして、様々な記念事業を実施します。

## 【安城学園冬のコンサート】



日にち／平成 29 年 12 月 10 日（日）  
場 所／安城市民会館 サルビアホール  
お問い合わせ／安城学園高等学校 TEL：0566-76-5105

安城学園創立者寺部だいの学園創立に至る一代記を、オーケストラによる演奏と清らかな歌声の合唱とともに、心に響く朗読で表現する朗読劇「夢のさなか」を公演します。また、本学園の吹奏楽部・弦楽部・合唱部による演奏会も併せて公演します。

## 【寺部だい・寺部清毅資料展】

日にち／平成 29 年 11 月 21 日（火）～26 日（日）  
場 所／安城市中心市街地拠点施設「アンフォーレ」

安城学園の創立者である寺部だい先生と、中興の祖である寺部清毅先生の写真や遺品等を展示する展覧会を開催します。



## 【その他の 105 周年事業】

記念式典の開催  
記念酒・記念飲料の製造  
社会人基礎力育成グランプリの開催  
寺部だい自伝「おもいでぐさ」英語版の制作  
寺部だい自伝「おもいでぐさ」のオーディオブック制作  
東日本から学ぶプロジェクト  
東北物産展 ほか

## 理事長挨拶



学校法人安城学園  
理事長 寺部 暁

明治 45 年の安城裁縫女学校から安城学園の教育は始まり、平成 29 年度で創立 105 周年を迎えます。これも、本学園の建学の精神の実践に精進していただいた学生・生徒・園児と教職員、そして本学園の発展にご理解・ご支援いただいた地域の皆様のお陰であります。心より感謝申し上げます。

さて、これからの日本社会は、本格的な少子・高齢化社会、経済成長が余り期待できない成熟社会、そして、A I（人工知能）によって仕事の世界が大きく変わる社会を迎えます。従って、教育の世界も、大きく変わらざるを得ないという意味で、「大変」な時代と社会を迎えます。

本学園では、このような時代と社会において、卒業生が「生きる意志と生きる力と生きる歓びに満ち溢れた」人生を送ることができるように「智・徳・体・感・行」という新しい教育モデルに基づいた「智性と徳性と身体と感性と行動」をバランスよく鍛え上げる自学システム・共学システムを完成させることによって、「教育の量ではなく、教育の質で勝負できる学校」を再構築していく所存です。

この創立 105 周年を機に、これまで以上の皆様方のご指導・ご鞭撻、宜しく願い申し上げます。

## 安城学園のあゆみ

- |                 |                                                                                 |                 |                                 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 明治 45 年（1912 年） | 安城裁縫女学校を設立。学校教育としてスタート。                                                         | 昭和 41 年（1966 年） | 愛知女子大学（現在の愛知学泉大学）を設置。           |
| 大正 6 年（1917 年）  | 安城女子職業学校に校名変更。                                                                  |                 | 愛知女子大学附属幼稚園（現在の愛知学泉大学附属幼稚園）を設置。 |
| 昭和 5 年（1930 年）  | 安城女子専門学校を設立。                                                                    | 昭和 50 年（1975 年） | 安城学園桜井幼稚園（現在の愛知学泉大学附属桜井幼稚園）を設置。 |
| 昭和 23 年（1948 年） | 安城学園女子中学校を設置（昭和 58 年に廃止）。<br>安城女子職業学校を安城学園女子高等学校（現在の安城学園高等学校）に組織変更。             | 昭和 62 年（1987 年） | 愛知学泉大学を共学化。                     |
| 昭和 25 年（1950 年） | 安城女子専門学校を安城学園女子短期大学（現在の愛知学泉短期大学）に組織変更。<br>安城学園女子短期大学附属幼稚園（現在の愛知学泉短期大学附属幼稚園）を設置。 | 平成 9 年（1997 年）  | シンボルマークを制定。                     |
| 昭和 27 年（1952 年） | 安城学園歌「永遠の女」を制定。                                                                 | 平成 10 年（1998 年） | 安城学園の歌「いまここに」を制定。               |
| 昭和 37 年（1962 年） | 安城学園女子短期大学附属高等学校岡崎城西分校（現在の岡崎城西高等学校）を設置。                                         | 平成 11 年（1999 年） | 安城学園高等学校・岡崎城西高等学校を共学化。          |
|                 |                                                                                 | 平成 13 年（2001 年） | 愛知学泉短期大学を共学化。（幼児教育学科を除く）        |
|                 |                                                                                 | 平成 29 年（2017 年） | 安城学園創立 105 周年を迎える。              |

